

胎内

大仏が当時の与えうる最良の技術を用いて建造されたという事実は内部から見ることによって明らかになります。大きい格子模様のついた内側の壁を調べてみると、大仏が 40 ほどの型に分かれて順に鑄造していったことがわかります。3 つの多様な部分の結び目には、切片の種類によって三種類の鑄造機構が採用されています。